

資料 1

木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組み状況

H25年度専門部会の取り組み状況

部会名	森づくり部会	担当	課、担当(グループ)名 森林整備課 技術支援係
部会長	岐阜大学教授 篠田 成郎		
構成員 (所属名)	岐阜大学教授 篠田 成郎 (部会長) (一社)岐阜県林業経営者協会 理事 河尻 和憲 (副部会長) 水環境もやい研究所代表 川合 千代子 公募委員 神山 智美 岐阜森林管理署長 長口 深 (8月末まで) 森川 誠道 (9月以降) NPO法人 柚の杜学舎 寺田 菜穂子 飛騨市森林組合 常務理事 森腰 守 (一社)岐阜県建設業協会理事 森本 繁司 林業家・郡上市民病院医師 山川 弘保 (一社)岐阜県森林施業協会副会長 山田 輝幸		
今 度 計 画	1 H25年度検討事項 ○森の通信簿の実施方法の検証		
	2 検討事項の具体的取り組み ○地域森林機能評価のための森の通信簿の活用に向け、実施体制、経費など課題整理をするため、県内数か所で森の通信簿を試行する。		
実 施 状 況	3 取り組み状況 ○第1回 (平成25年6月27日 開催) (1) 平成24年度の検討結果(報告) (2) 森の通信簿の試行について(協議) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【主な意見】 ・森の通信簿は、楽しくて、わかりやすく、達成感、充実感が得られる実施プログラムが必要。 </div> ○森の通信簿試行 (平成25年7月28日 美濃市片知) ○第2回 (平成25年9月12日 開催) (1) 森の通信簿実施マニュアルについて(協議) (2) 森の通信簿の試行について(協議) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【主な意見】 ・実施マニュアルは誰でもわかりやすい語句を用いること。実施するリーダーの養成も必要。 ・森の通信簿は地域で使いやすいよう地域版に変えてもらおうと良い。 </div> ○森の通信簿試行 (平成25年9月17日 郡上市大和) ○森の通信簿試行 (平成25年9月29日 美濃市曾代) ○森の通信簿試行 (平成25年10月27日 郡上市高鷲町) ○森の通信簿試行 (平成25年11月4日 多治見市甘原町) ○森の通信簿試行 (平成25年11月17日 下呂市萩原町) ○第3回 (平成25年11月22日 開催) (1) 岐阜県水源地域保全条例の指定状況等について (報告) (2) 森の通信簿の試行結果について(報告) (3) 森の通信簿の活用について (協議)		

【主な意見】

- ・森の通信簿の改良を続け、データを蓄積しながらしっかりと評価できるものにすべき。
- ・水源地域保全条例で指定した人工林を県民が評価する活動に森の通信簿を活用できないか。

○第4回（平成26年3月12日 開催）

- (1) 森林・林業の担い手（4つの人材）育成の進捗状況（報告）
- (2) 平成26年度森の通信簿事業について（報告）
- (3) 森の通信簿の活用戦略について（協議）
- (4) 平成25年度森づくり部会のまとめについて（協議）

【主な意見】

- ・森の通信簿を実施するためには、その指導者の養成が必要ではないか。
- ・森の通信簿の目的は一つでない。いろんな活用方法があっても良い。

4 取り組み結果

○成果

- ・森の通信簿の実施方法等を検討した結果、森の通信簿及び実施マニュアル・指導書ができ、県民への普及教育ツールとして活用されることとなった。
- ・森の通信簿の普及、活用を図るための長期的な活用戦略ロードマップを提案（別紙）。

○森の通信簿に関する課題と対応方向

- ・一般県民が森の通信簿を実施するためには、実行組織や指導者が必要となる。
→平成26年度県民協働による森の通信簿作成事業で実行組織が構築されることを期待したい。
また、森の通信簿の指導者が養成されるよう、森林環境教育（木育）での活用を木の国・山の国県民会議の普及・教育部会で検討していただきたい。
- ・森の通信簿の評価の妥当性を高めるため、学術的にオーソライズされる必要がある。
→大学、研究機関で森の通信簿の評価内容を検証していただきたい。

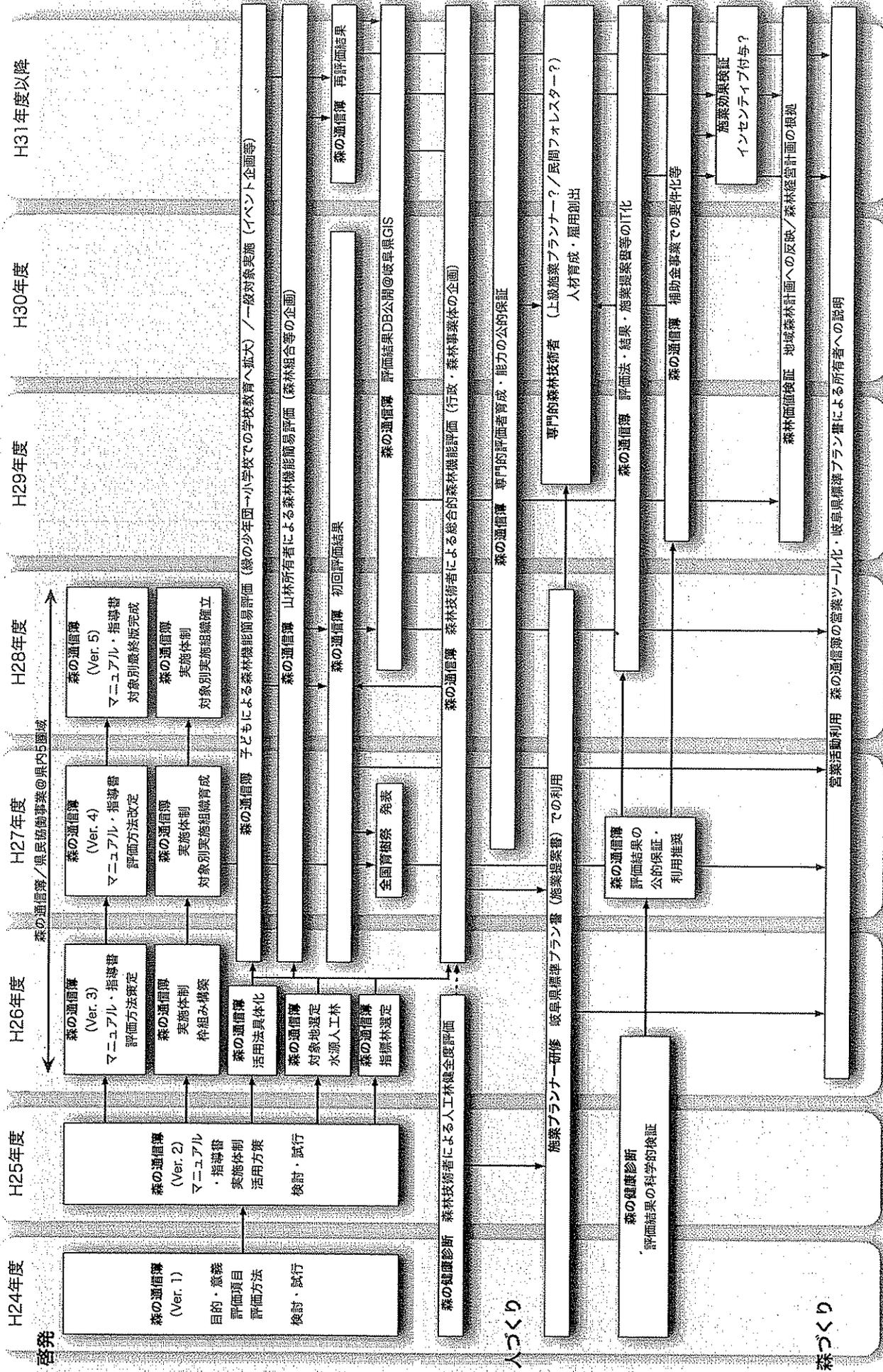
今後の課題

5 今後の課題（森づくり部会での検討課題）

- ① 皆伐及び皆伐後の再造林手法
- ② 伐採量増加に伴う林業担い手の育成確保
- ③ 将来的なビジョンに基づく地域の森林管理を進めるうえでの市町村森林管理委員会、森林組合、指導者（フォレスター等）のあり方

「森の通信簿」活用戦略ロードマップ

2014年3月19日



平成25年度専門部会の取り組み状況

部会名	木づかい部会	担	県産材流通課
部会長	山田 貴敏	当	県産材需要拡大係
構成員 (所属名)	山田 貴敏 <部会長> (笠原木材株式会社代表取締役) 河内 美代子<副部会長> (建築士会 東海北陸ブロック 女性建築士相談役) 中島 由紀子 (NPO法人グッドライフサポートセンター事務局長) (委員のほか、製材関係、飲食関係事業者等4名の方にアドバイザーとして会議に参加していただいた。)		
今年度計画	1 H25年度検討事項 ・県産材利用拡大施策の取り組みと課題について		
	2 検討事項の具体的な取り組み ・商業施設等における県産材の需要拡大について		
実施状況	3 取り組み状況 ■第1回(平成25年9月3日(火)開催) 商業施設における木材利用推進のための施策について検討(協議) 【主な意見】 ・企業は、予算の制約が厳しく、県産材を使用するかどうかは、企業理念によるので、木を使う意義を説明することが必要 ・木造施設は、RC造や鉄骨造に比べ、建物のランニングコスト(例:光熱水道費)を抑えられることや、税制面などの優遇措置のメリットもあるがあまり知らせていないのでPRすべき。		
	■第2回(平成25年12月6日(金)開催)(現地検討会) 木造で整備された商業施設2店舗を現地調査 ・大型複合商業施設「サウスウッド」(神奈川県横浜市都筑区) ・和食麺処飲食店「サガミ川崎宮前店」(神奈川県川崎市宮前) 【主な意見】 ・商業施設に県産材を使用した場合、誰が見ても県産材だと分かる工夫が必要。 (例:木製プレートの提示、焼印)		
	■第3回(平成26年3月6日(木)開催) 商業施設等への県産材利用促進のためのチラシの作成と今後の取組について(協議) 【主な意見】 ・チラシは誰が見ても理解できるような表現とし、Q&A形式やイラストの活用を検討すべき。 ・施主向けのチラシではあるが、営業ツールとして、建築士や工務店が活用できるように働きかける。		
	4 取り組み結果 ・商業施設への県産材利用を促進するチラシ(案)の作成 ・公共建築物等木造化研修会の開催 日時:H26.3.4 場所:中濃総合庁舎、参加者:68名 学校建築の専門家を講師に迎え、市町村や建築士等を対象とした研修会を開催 ・内装木質化を実施した施設の内覧会を開催 日時:H25.11.18 場所:大垣特別支援学校 参加者:33名 床と壁を木質化した高等部棟の内覧会を開催		
今後の課題	5 今後の課題 商業施設等における県産材の利用推進 ・企業、建築士、工務店へのチラシを活用した効果的なPR活動の実施 ・ホームページや森林・林業関係情報誌等を活用した一般県民へのPR ・行政、建築士、工務店、商工会等関係者の連携強化		

あなたのお店に県産材を使ってみませんか？

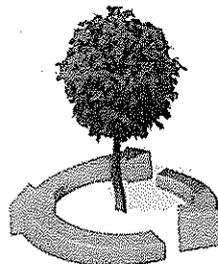
■木材利用の必要性

Q、最近木材に関する話題をよく聞くけど、何か問題になっているの？



A、日本の森林は、年々人工林が増えているが、手入れが行き届いていない山があるんだ。そこで山や森を守るためにも、山から切り出された木材を有効に使うという取組を進めている

Q、具体的に岐阜県では、どんな取り組みをしているの？



A、岐阜県では主に住宅や公共施設に木材利用を進めていて、今後はさらに店舗などの商業施設への普及を進めていく必要があると考えているんだ。

■木造施設のメリット

1 木造施設は決して高くない

住宅用の一般流通材を活用することで、建築コストを抑えることができます。また躯体が軽いため、土地の造成工事や基礎工事が短期間でかつ安価に実施できます。

<※施設規模が約175坪（578㎡）平屋建ての構造別コスト比較>

項目	木造	鉄骨造	RC造
建築工事費（千円）	107,856	108,570	110,187
㎡あたりの単価（千円）	186	188	190

2 光熱水道費のコスト

木材は断熱性や調湿性が高く、室内の気温や湿度の変化が少ないことから、断熱工事費やエアコン代等のランニングコストの節約につながります。

3 税制面の優遇措置

木造は法令上耐用年数が短く設定されているため、会計処理において減価償却費が多く計上できることや、固定資産税の評価額が低いことから、償却を早く進めたい場合に有利です。

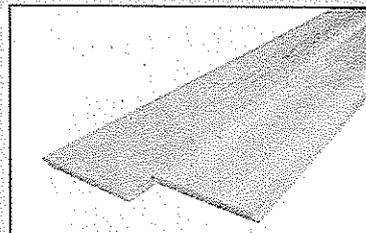
「ぎふの木で内装木質化支援事業」

岐阜県では、住宅や店舗等をリフォームするにあたり、内装材（床・壁等）に県産材を活用した場合の経費を支援しています！！

お店に県産材を使ってくれた方、**最大10万円**をプレゼント！！

制度内容

- ・補助金額：**1㎡あたり2,000円（最大10万円）**
- ・対象施設：**飲食店、理容・美容店、医療施設**
- ・対象棟数：20棟（先着順）
- ・建築場所：岐阜県内
- ・県産材使用条件：内装仕上げ材（フローリング、壁板、天井板等）に**20㎡以上**使用
- ・その他：県内の建築事業者（県内に事業所または営業所）が施工
- ・申請期間：平成26年4月1日～平成27年2月27日
（※平成26年3月1日～平成27年2月27日までの工事が対象）
- ・申請方法：施設が所在する地域の県総合庁舎農林事務所林業課



ヒノキ羽目板

申請例



木の魅力 人の温もり
ぎふ証明材

岐阜市内で飲食店を営む事業者が、リフォームするにあたり、延床面積が、30坪（約100㎡）の飲食店で、床40㎡、腰壁20㎡木質化した場合

使用材料：床：県産スギフローリング 腰壁：ヒノキ羽目板

■補助金額

60㎡×2,000＝120,000円（補助上限 10万円）

■施工業者

株式会社〇〇工務店

■書類の申請先

ふれあい福寿会館8階 岐阜農林事務所林業課



（工務店等ゴム印欄）

【お問い合わせ】

岐阜県林政部県産材流通課県産材需要拡大係

電話：058-272-1111（内線3014）

FAX：058-278-2705

E-mail：c11545@pref.gogu.lg.jp

URL：<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/rinsei/kei>



平成25年度県有施設木質化等推進事業で実施した大垣特別支援学校の内覧会

開催日 : 平成25年11月18日(月)

参加者 : 33名 (県・市町村・報道関係者)

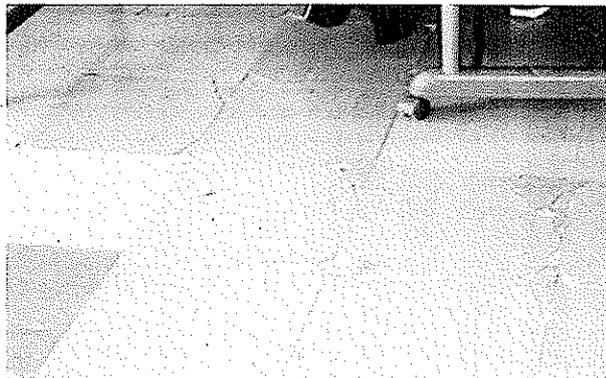
木質化箇所: 教室(9室)、職業訓練室、廊下 【床: スギ圧密フローリング、壁: ヒノキ羽目板】

施工写真

■施工前



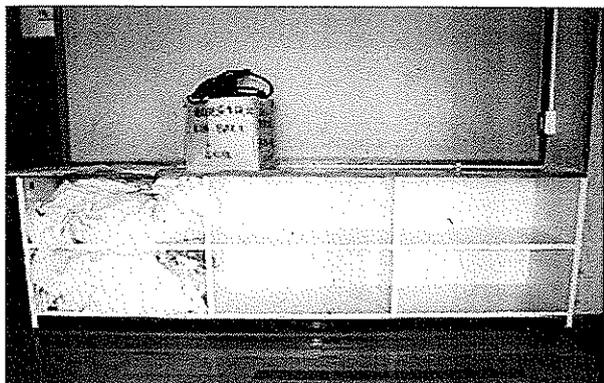
教室全景



床

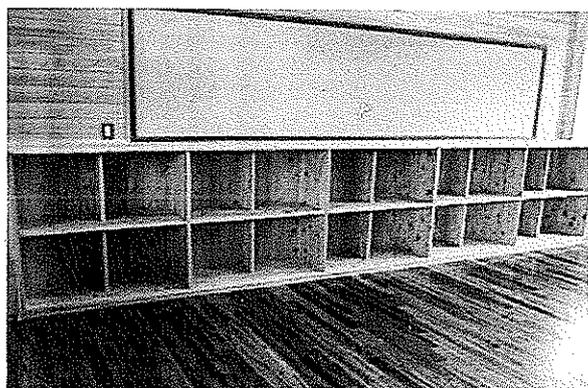
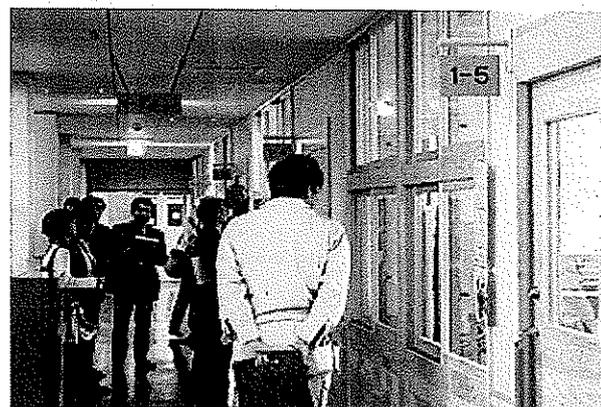


廊下



ロッカー

■施工後



平成25年度専門部会の取り組み状況

部会名	普及・教育部会	担当	恵みの森づくり推進課 緑化運動係
部会長	伊藤 栄一		
構成員 (所属名)	伊藤 栄一（特定非営利活動法人 森のなりわい研究所） 清水 佳子（特定非営利活動法人 長良・自然とくらし楽校） 田中 露美（岐阜県生活学校連絡協議会） 藤井 佳代子（岐阜県庁中学校女性校長会） 度会 さち子（岐阜県地域女性団体協議会）		
今年度計画	<p>1 H25年度検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木製品を通して森や木への理解を普及することについて ・より効果的な普及方法とは？ <p>2 検討事項の具体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の普及啓発活動の振り返り ・木づかい部会での議論内容を共有 ・マーケティング戦略の考え方等も参考に、効果的な普及方法についての議論を深める 		
実施状況	<p>3 取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○10月29日に第1回普及・教育部会を開催し、本年度の普及啓発活動の振り返りと、部会で検討すべき事項の洗い出しを行った。 ○2月19日に第2回普及・教育部会を開催し、検討事項について議論を深めた。 <p>4 取り組み結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「清流の国ぎふ地域活動支援事業」や「緑と水の子ども会議」のような事業を継続して積み重ねていくことは、県民とのつながりという点で大切である。こういった成果をいかに地域へ還元していくか。 ○環境税事業に関する新聞連載のように、地域で核となる「人」に焦点を当てたPR方法は良い。 ○「木育」が、いわゆる木材利用の促進の意味に偏っている印象がある。『具体的に森とどうつなげるか』をもっと考えたい。 ○やはり山や川など現地に行くことは大事。木育は良いという気持ちを持っていてもなかなか現地と結びつかない。 ○飛騨の民具や昔話などを題材に森や木の話へ持っていくアプローチも良い。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆森と人を結びつけるコーディネーターの育成やネットワークづくりに力を入れることが効果的である。 ◆木のおもちゃなど木製品を通じた普及においても、単に売るためだけでなく、作り手と使い手の直接的なやりとり（生産者と消費者が協働で作上げるような取組）をコーディネートしていく必要がある。今年度、恵みの森づくりコンソーシアムが実施している『障がい者向けの木製玩具・木製補助具づくり』が1つの良い例。 ◆各種イベントを実施する際に、「森に理解を深めるものづくり」のモデルを県民に示していくと良い。そういった取組を進めるうえで木づかい部会とも連携していきたい。 		
今後の課題	<p>5 今後の課題</p> <p>コーディネーターの育成やネットワークづくり、「木製品づくり」のような目に見える事業化等に関する取組の拡充</p>		

ぎふ木育ひろば 実施例

○出展イベント名称

「地域で支え合うグッドフェスタ」 主催：NPO法人グッドライフ・サポートセンター

○日時：平成26年3月1日(土) 10:30~16:00

○場所：マーサ21(岐阜市正木) 1階 マーサスクウェア

○内容：ぎふの木のおもちゃで自由に遊んでもらい、素材としての木の良さを実感してもらう。

○来場者数：約150名(ぎふ木育ひろばのみのカウント)



来場者の声

- ・木の種類がこんなにあって、それぞれこんなに違うことにびっくりした。
- ・こういうおもちゃは1人で遊ぶだけでなく、みんなで遊ぶので小さな子の面倒を見たり、片づけに協力する姿が微笑ましい。
- ・岐阜県の森林率が全国第2位だなんてみんな知らないのもっとPRしてほしい。
- ・こういう遊び場が増えてほしいけど、木のおもちゃの除菌対策が心配。



ぎふの木のおもちゃ

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達と一緒に遊ぶのが楽しいですね。木のおもちゃは、自然の素材でできていて、安全で安心です。ぜひ、一緒に遊んでください。

岐阜県には、こんなにたくさんのお木があります！

お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達と一緒に遊ぶのが楽しいですね。木のおもちゃは、自然の素材でできていて、安全で安心です。ぜひ、一緒に遊んでください。



ぎふの木のおもちゃ
買出しだい

恵みの森づくり推進モデル事業

障がいのある方や高齢者を対象としたリハビリ用の木のおもちゃや自助具の製作

- 実施者：『恵みの森づくりコンソーシアム』内のプロジェクトチーム
- 目的：川上(木材生産)から川下(木製品の使用)まで一連となって森の恵みを活用するモデルの構築
(※製品の企画立案から、原材料となる木材の生産・加工までを構成員相互で協力して実施)
- 協力機関：国立大学法人岐阜大学医学部看護学科、県立希望が丘学園



企画会議



塾生による製作



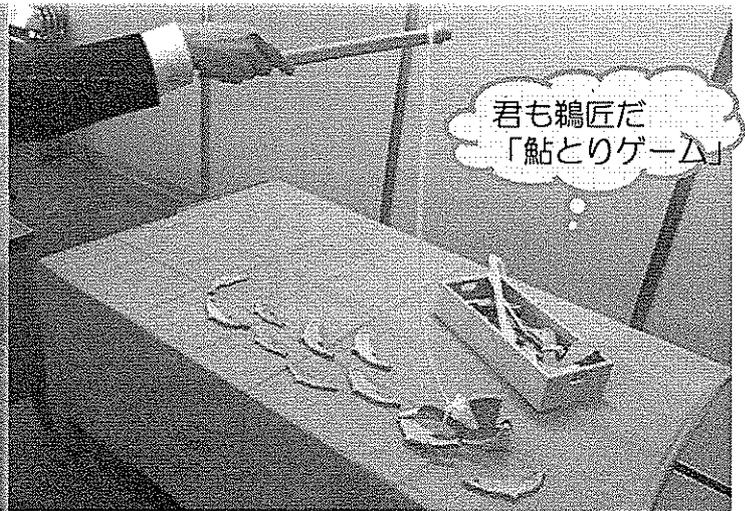
材料となる木材の生産



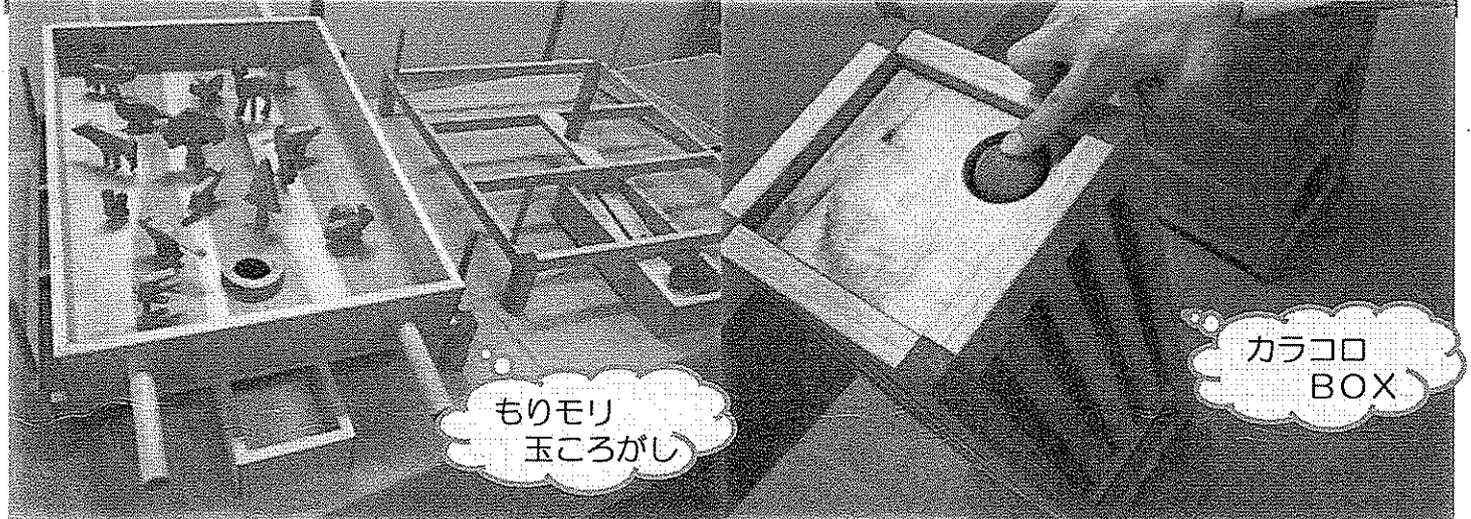
試作品の検証



自助具
「NIGIKKO」



君も鴉匠だ
「鮎とりゲーム」



もりもり
玉ころがし

カラコロ
BOX